

アンリツ株式会社 会社説明会

アンリツ株式会社
執行役員
永田 修



東証第1部:証券コード 6754
<http://www.anritsu.com>



目次

1. 会社概要
2. アンリツの今 — 事業概要と経営体質 —
3. 計測事業の特徴と強み
4. アンリツの成長ドライバーは？
5. 中長期経営ビジョン「2020VISION」
6. 株主・投資家の皆さまへ

1. 会社概要

1-1. 会社概要

アンリツは、創業以来120年にわたり、世界の通信技術の発展に貢献してきたリーディングカンパニーです。



社名	アンリツ株式会社
本社所在地	神奈川県厚木市恩名5-1-1
創業	1895年(明治28年)
事業内容	通信用計測機器、産業機械、情報通信機器等の開発・製造・販売
資本金	190億52百万円 (平成26年3月31日現在)
売上高	1,018億53百万円 (平成26年3月期:連結)
従業員数	3,880名(平成26年3月31日現在:連結)
グループ企業	国内:10社、海外:29社

1-2. アンリツのルーツ —有線・無線通信企業の統合—

1895年(明治28年)



有線通信のパイオニア
石杉社創業

阿部電線製作所

1900年(明治33年)



無線通信のパイオニア
安中電機製作所設立

1908年(明治41年)

共立電機電線設立

1931年
(昭和6年)

安立電気(株)設立

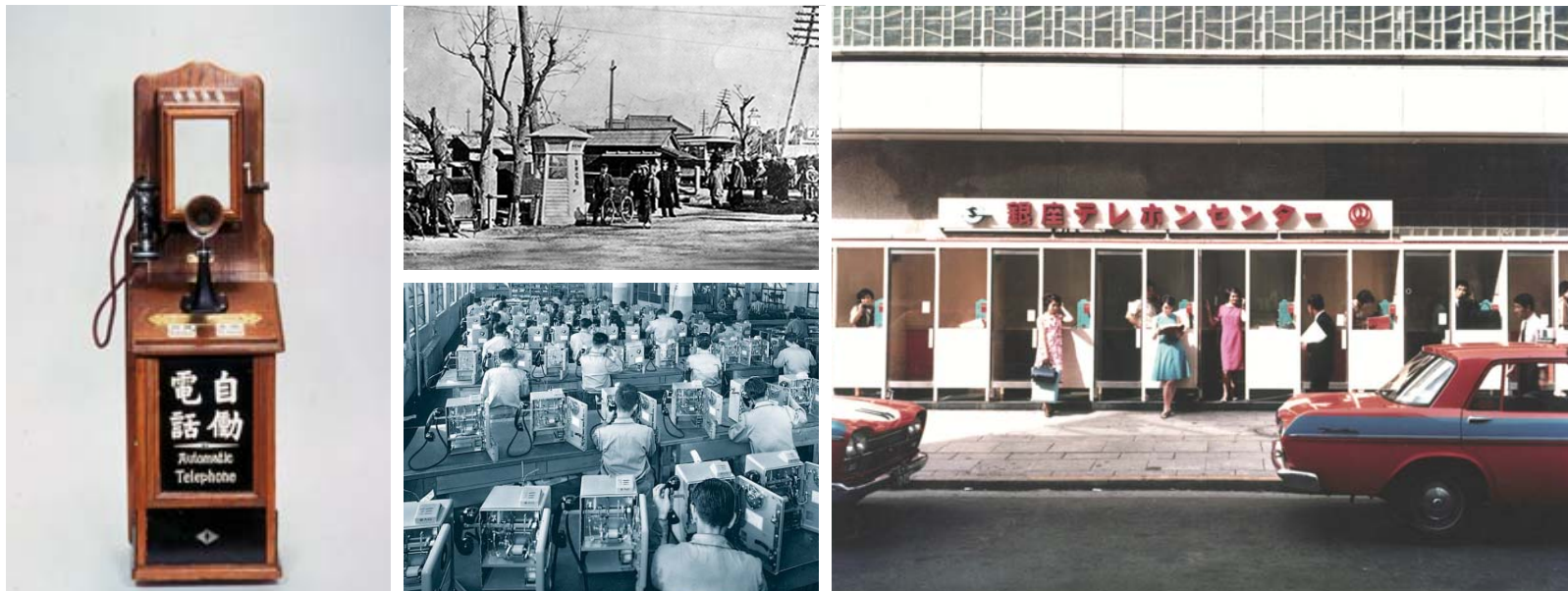
1985年
(昭和60年)

Anritsu アンリツ(株)に社名変更

1-3. アンリツの2つの元祖(1) 公衆電話



公衆電話で、街頭でのコミュニケーションに貢献



1908年、公衆電話の元祖「共電式自働電話機」を製造

日本だけでなく、オーストラリア、メキシコ、などに輸出



1-3. アンリツの2つの元祖（2） ケータイ



スマホの源流は「TYK式無線電話機」



- 世界で初めて実用化された無線電話機を開発
- 三重県鳥羽市、神島に設置され、伊勢湾を航行する船舶の通信に利用

1-4. インターネット & モバイルを支えるアンリツ



ラジオ



テレビ



携帯電話



スマホ



1900

時代と通信の進展

2000



固定電話



インターネット



2. アンリツの今

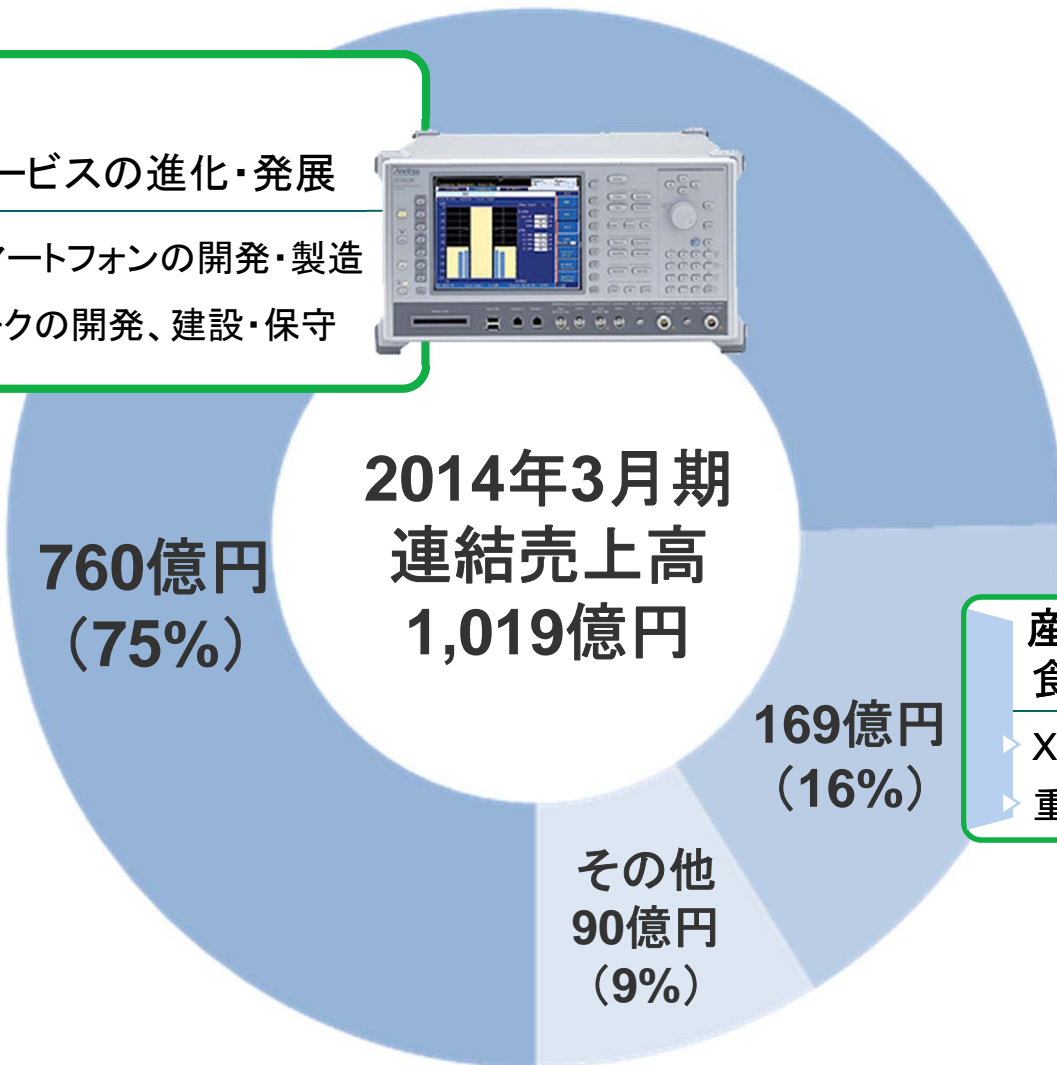
— 事業概要と経営体質 —

2-1-1. 事業概要

計測事業を主力に事業展開

計測事業
情報通信サービスの進化・発展

- ▶ 携帯電話・スマートフォンの開発・製造
- ▶ 通信ネットワークの開発、建設・保守



産業機械事業
食の安全・安心

- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



2-1-2. 事業概要

計測事業

開発・製造・建設・保守用



- ▶ モバイル市場：LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：電子部品、無線設備

産業機械事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



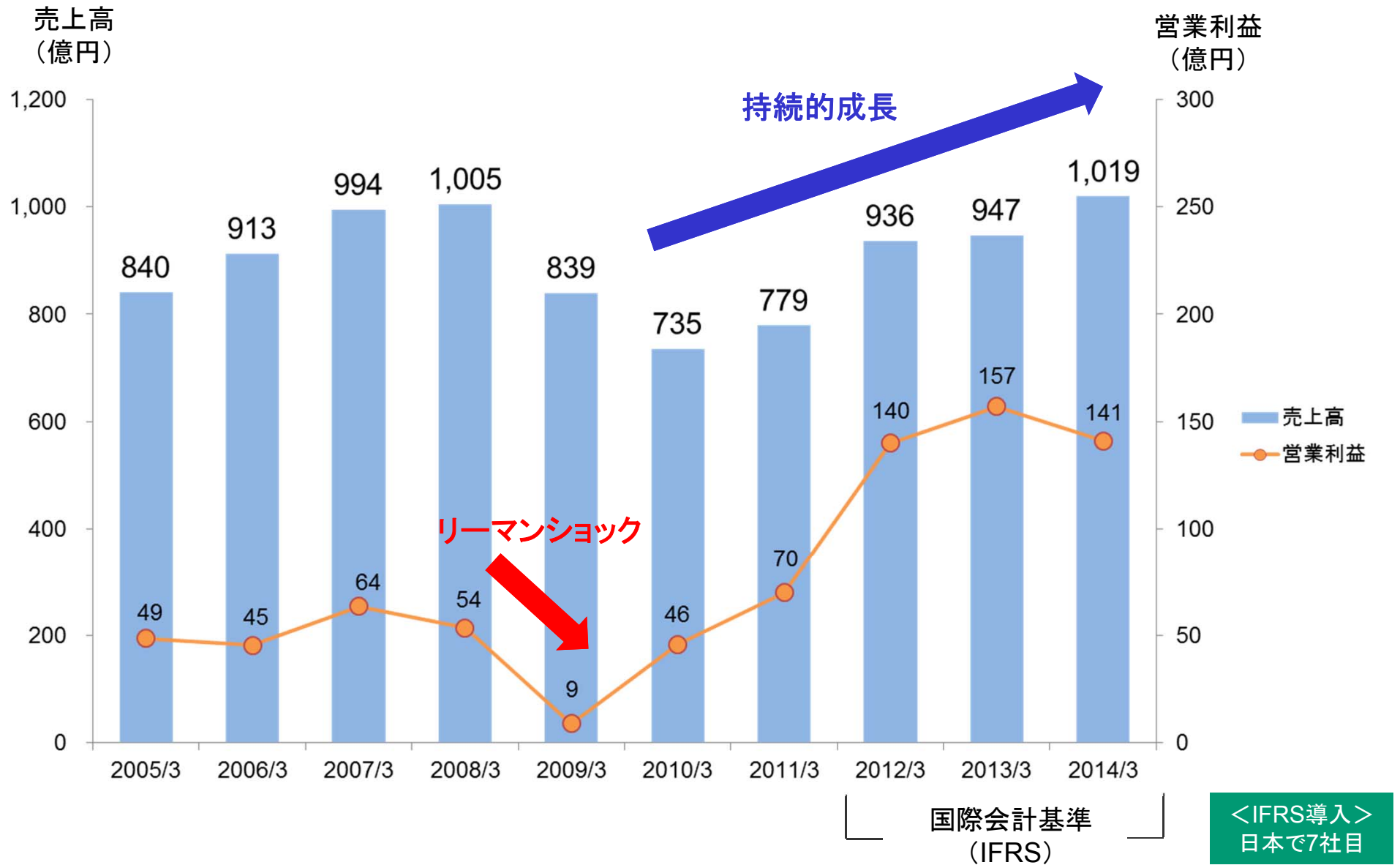
(セグメント別売上比率) 2014年3月期 実績(連結)：1,019億円

計測 75%			産業機械 16%	その他 9%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

(計測事業 地域別売上比率)

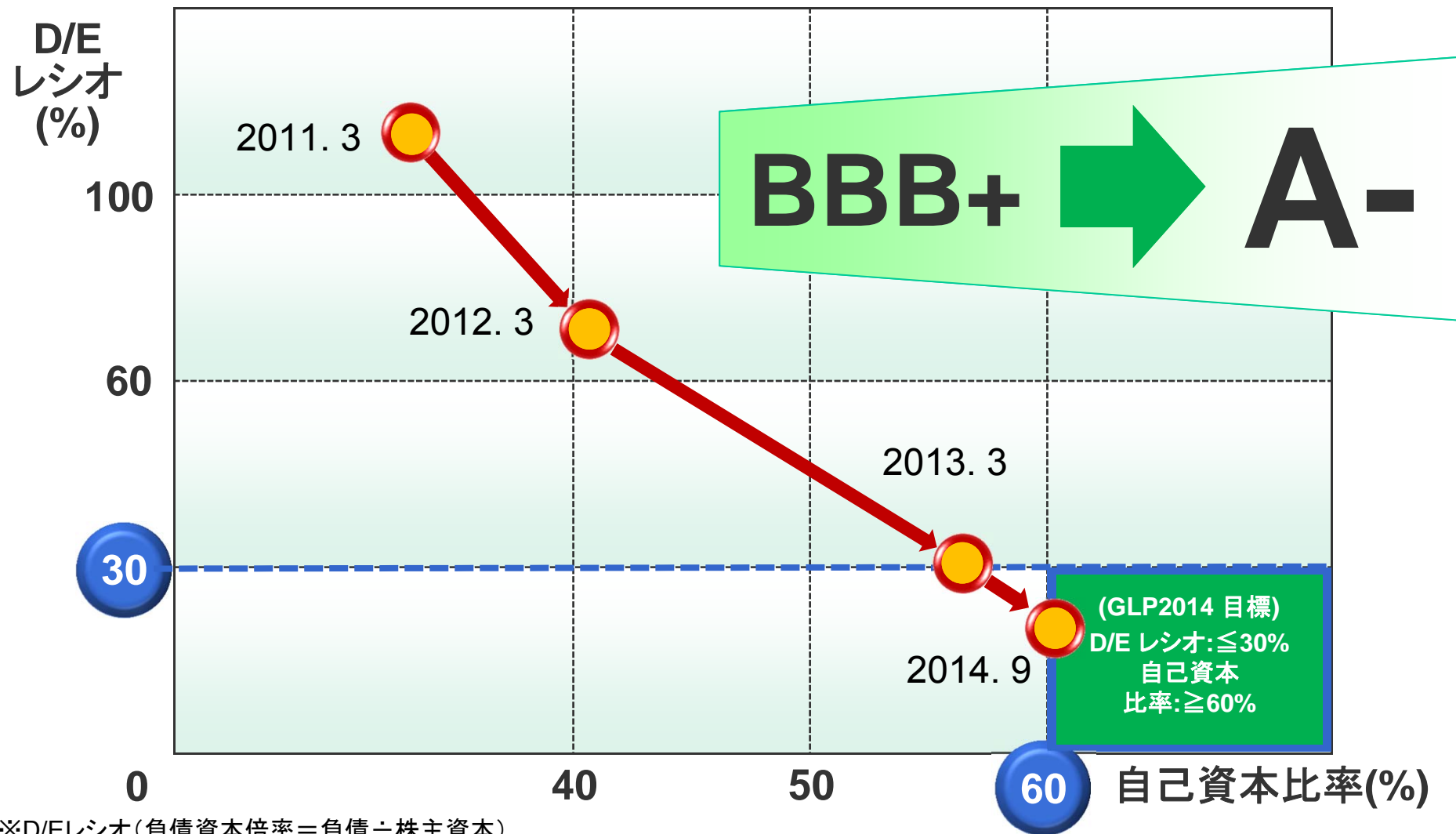
日本 17%	アジア、パシフィック 30%	米州 35%	EMEA 18%
-----------	-------------------	-----------	-------------

2-2. 連結業績の推移



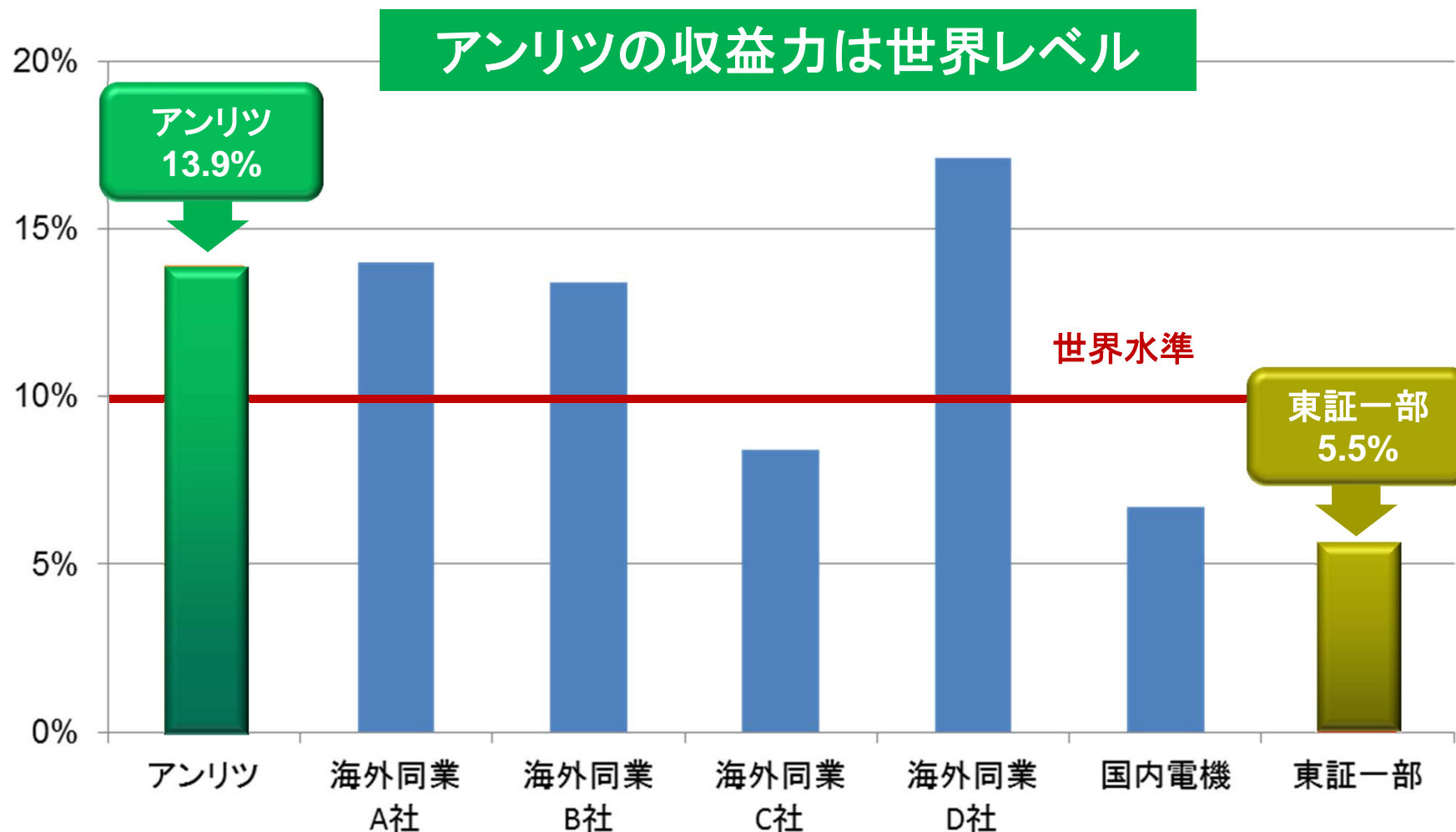
2-3. 強靱な財務体質

堅調な業績を背景に、格付け改善



2-4. 各種指標でみるアンリツのポジション

(1) 営業利益率



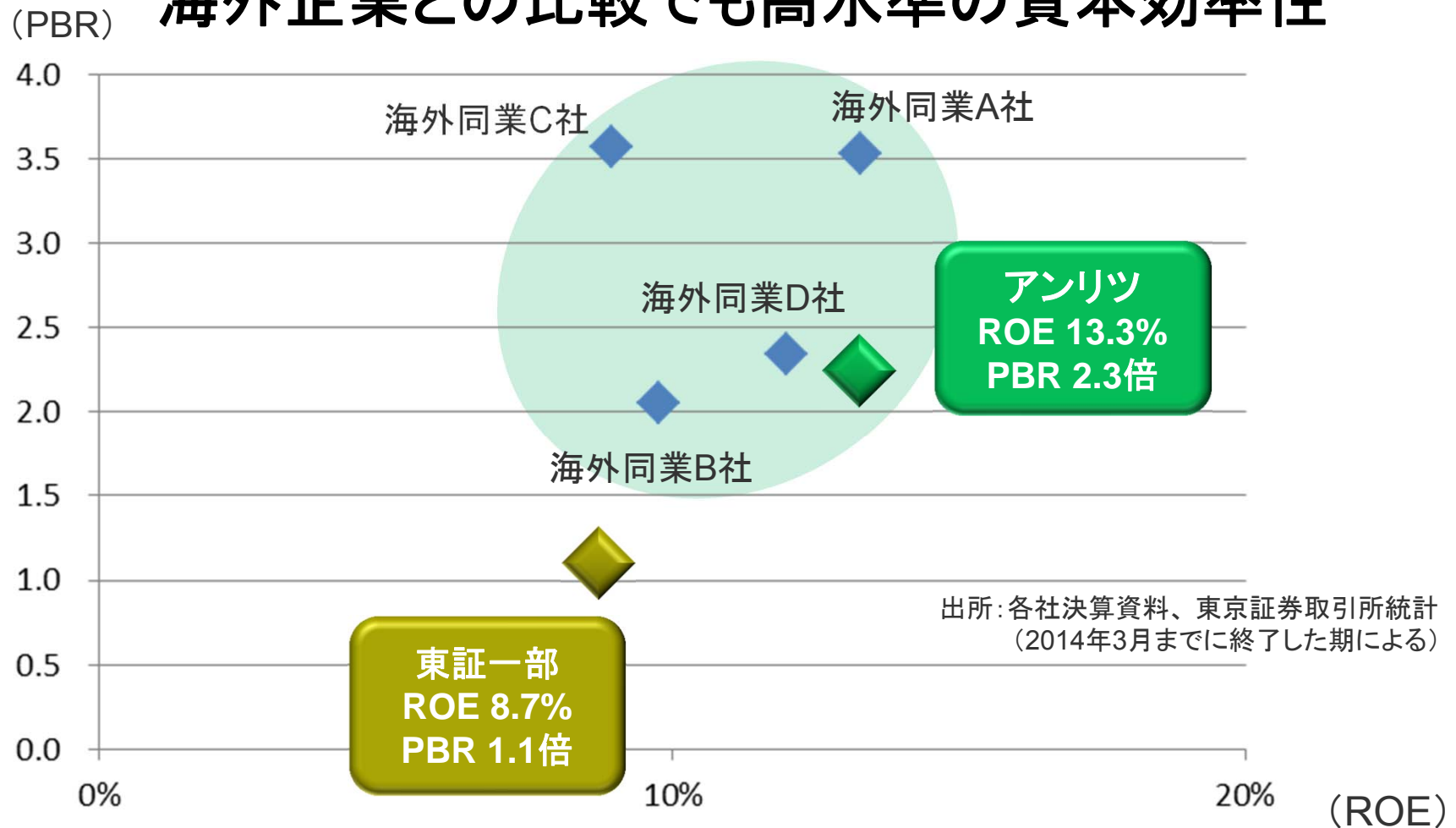
出所: 各社決算資料、東京証券取引所統計

※東証一部: 2014年3月期決算企業(1,237社)単純平均

2-4. 各種指標でみるアンリツのポジション

(2) ROE(株主資本利益率)とPBR(株価純資産倍率)

海外企業との比較でも高水準の資本効率性



3. 計測事業の特徴と強み

3-1. モバイル計測業界の特徴

- 技術的な参入障壁が高く、
限られた主要プレイヤーによる競争
- 2G (GSM)、3G (W-CDMA)、4G (LTE) など、既存
技術と新規技術の相互接続が必須



■ 主な競合企業

ローデ・アンド・シュワルツ(独)

<非上場>

キーサイト・テクノロジー(米)

<NYSE上場>

(旧 アジレント・テクノロジー)

3-2. アンリツの強み

■ 高い技術力

- 長期にわたり培われた信頼と高度な技術の蓄積
- 有線・無線、双方の技術を保有
- キーデバイスを自社開発

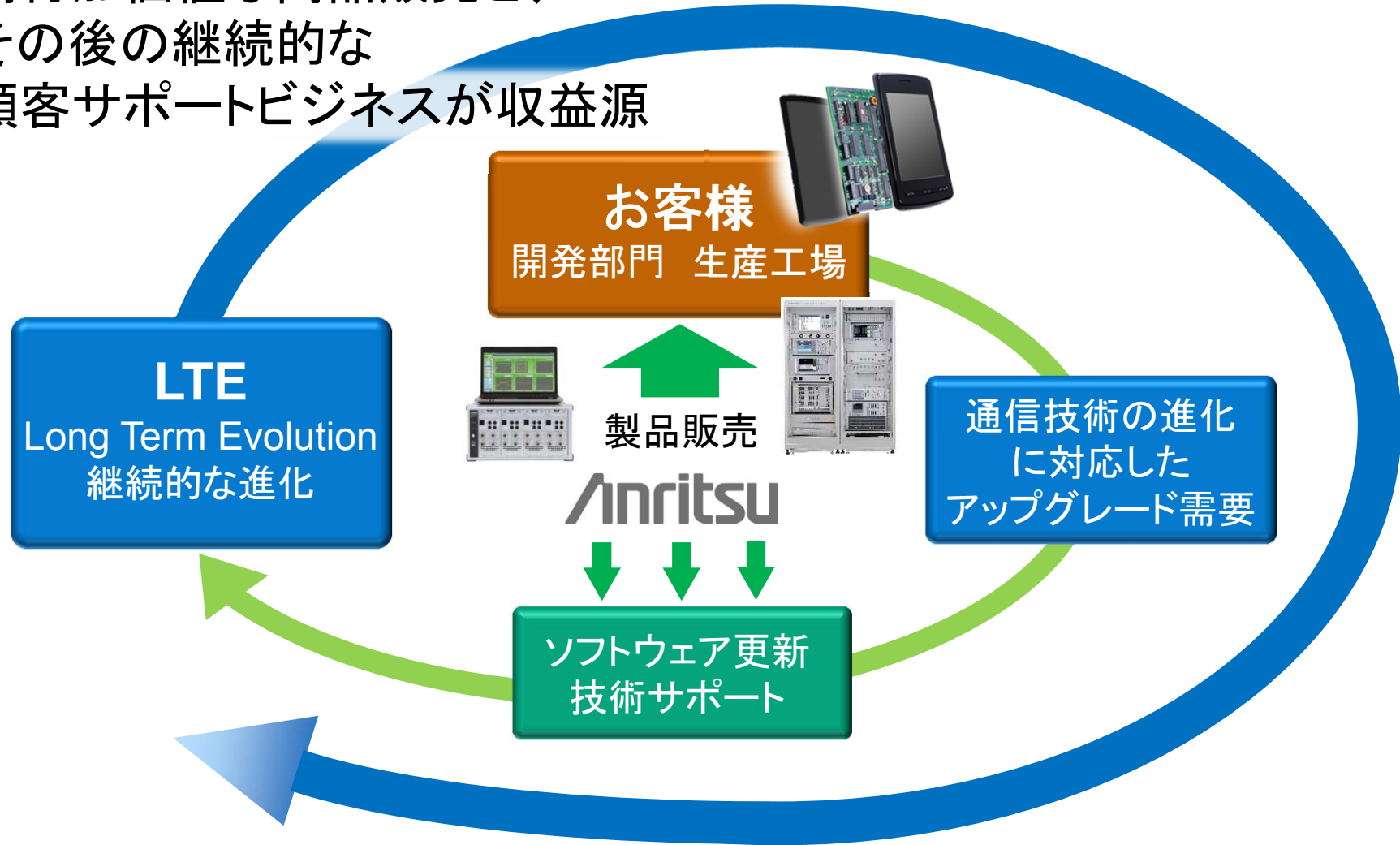
■ グローバルな開発・販売・サポート体制

■ グローバルなキープレーヤーとの信頼関係



3-3. 進化し続けるモバイル・ブロードバンド

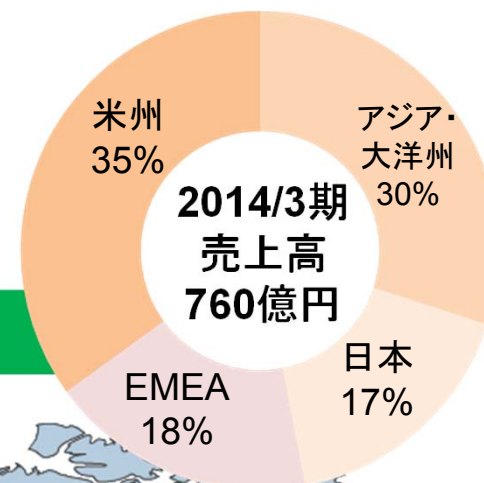
高付加価値な商品販売と、
その後の継続的な
顧客サポートビジネスが収益源



3-4. グローバルな事業体制

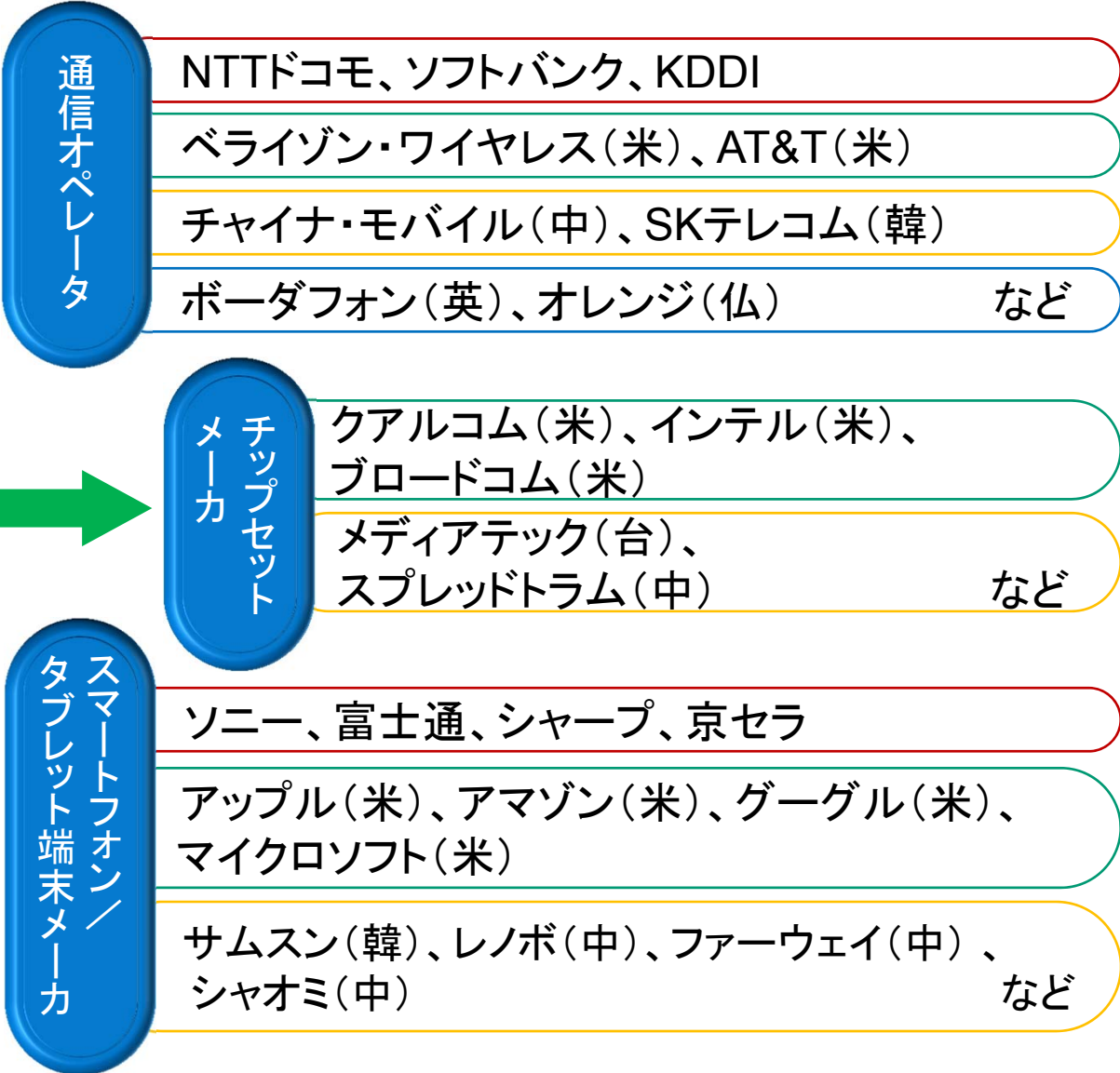
世界18カ国に24の法人を展開
(研究開発拠点7箇所、製造拠点3箇所)

各地域の拠点からグローバルなお客様に製品を提供



3-5. アンリツはモバイル計測のキープレイヤー

世界の通信サービスをリードする主要企業がお客様

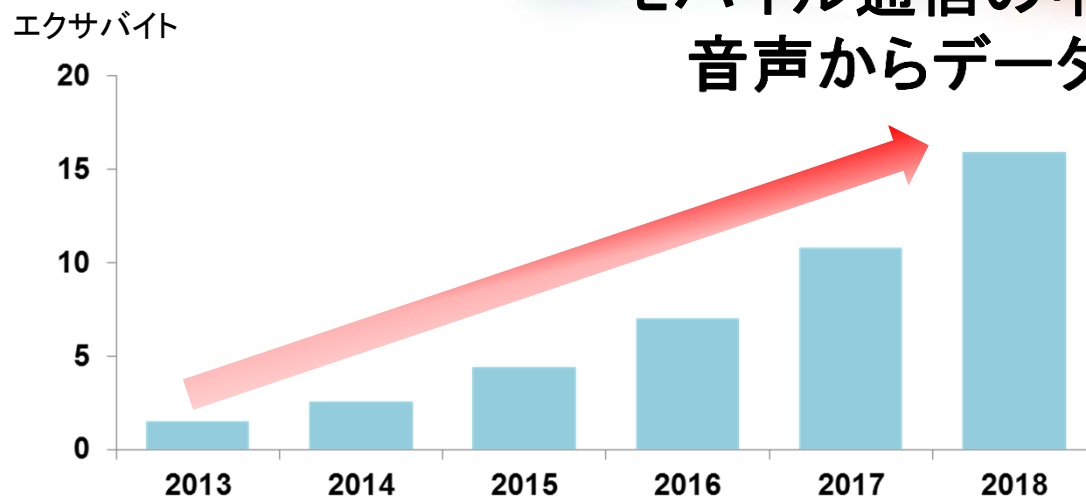


4. アンリツの 成長ドライバーは？

4-1. マルチメディアが手のひらサイズに



モバイル通信の中心は
音声からデータへ



2018年までに
データ通信量は10
倍以上に増加

4-2. こんな経験ありませんか？



遅い！



途切れる！



**電池の消費
が早い！**

データ通信量の増加が
引き起こす
様々な通信トラブル

4-3. アンリツの計測ソリューションが「つながらない」の解決に一役買っています

端末の高品質化



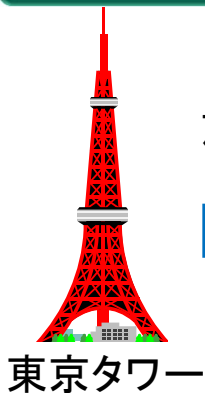
スマートフォンの動作検証
アプリ開発、バッテリー試験...

基地局の拡充

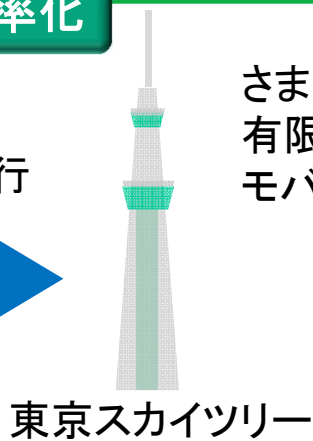


基地局の建設・保守、
動作検証

通信ネットワークの効率化



放送電波の移行



さまざまな無線通信が使用する
有限な電波帯域(周波数)の割当てを再編し
モバイル通信をつながりやすく



アンテナの
送受信特性解析

4-4. 成長ドライバー: モバイル計測事業

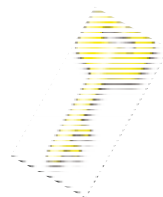
アンリツのビジネス拡大の

Keyword



①

スマートフォンの普及



②

高速モバイル通信LTE



③

モバイル基地局の拡充

4-4-1.

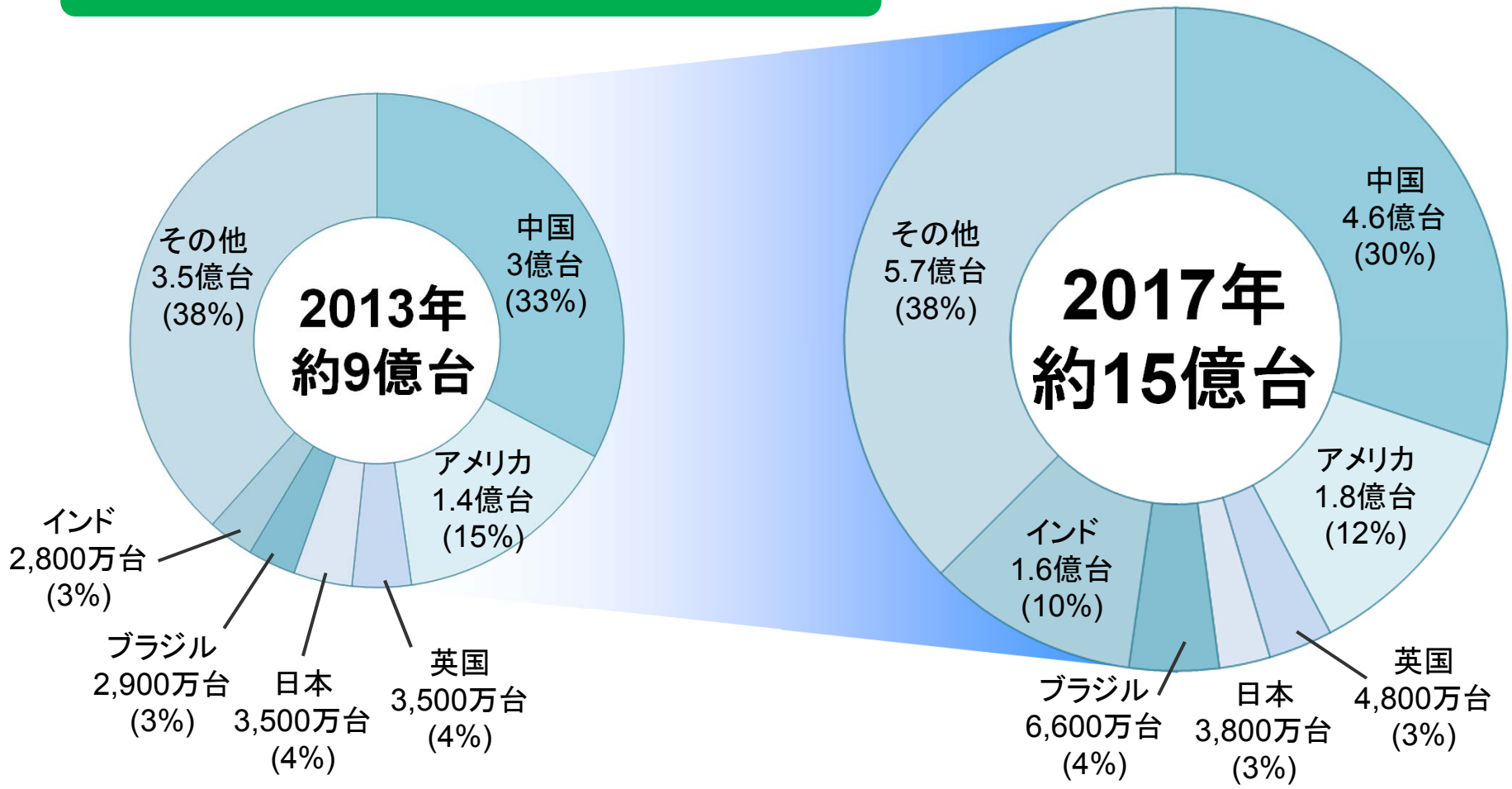
Keyword



① スマートフォンの普及

先進国から新興国へ普及が拡大

地域別のスマートフォン出荷台数

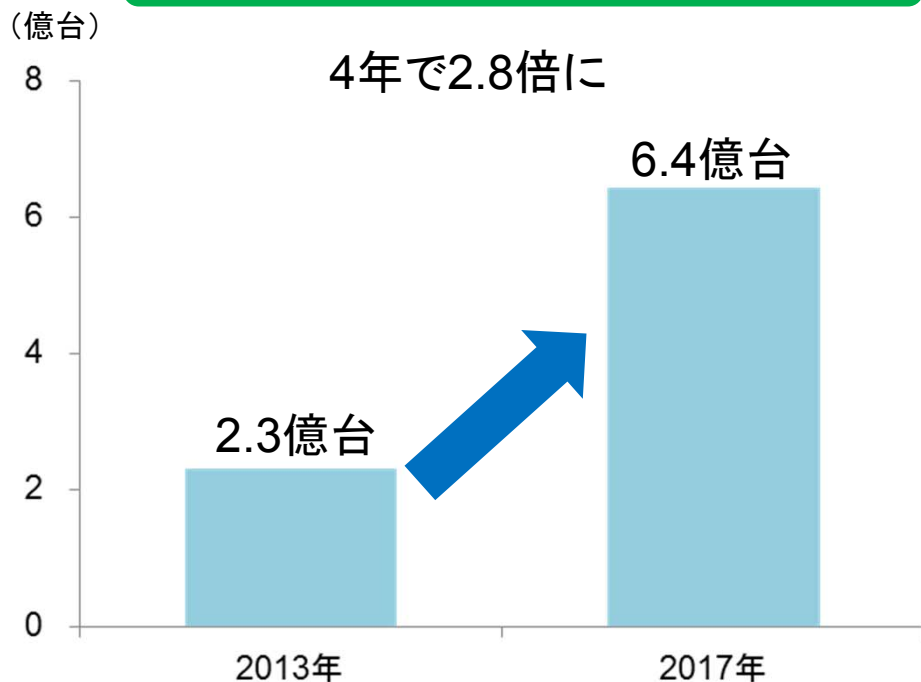


出所: IDC

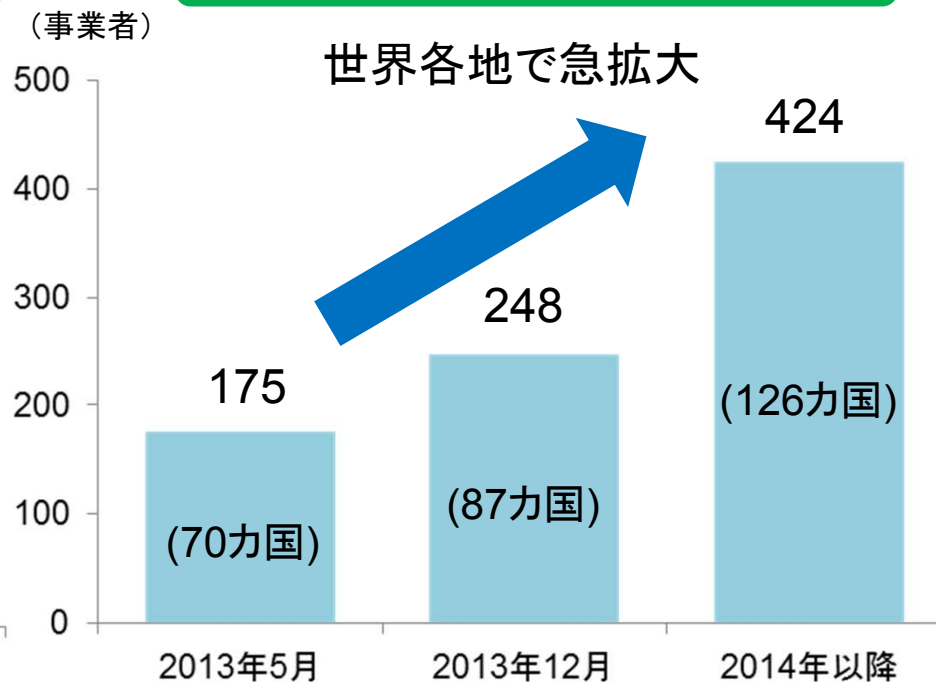
4-4-2. Keyword ② 高速モバイル通信 LTE

世界的な普及拡大とともに対応端末の生産が増加

LTE対応スマートフォン生産台数



世界のLTEサービス導入計画



アンリツの
ソリューション

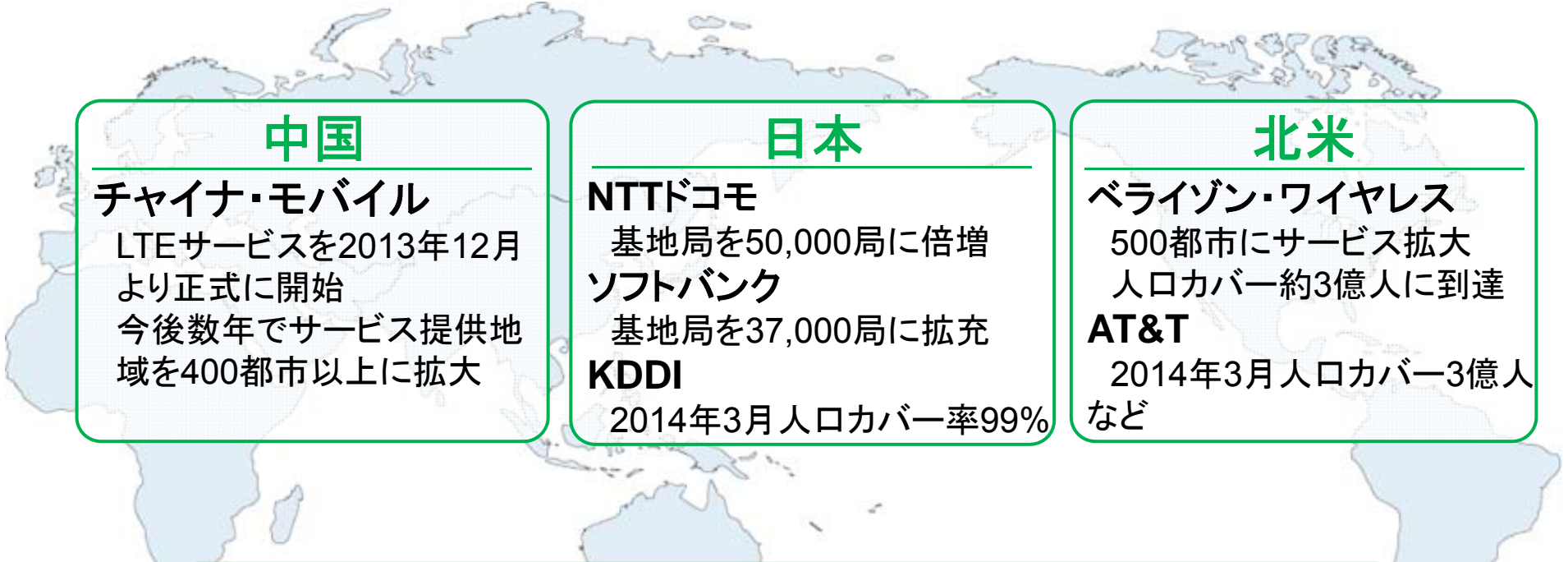


LTE方式の研究開発、端末製造用テスト
世界トップクラスの市場ポジション

4-4-3. Keyword ③ モバイル基地局の拡充

各地域で通信オペレータ間の「つながる」競争が激化

主な通信オペレータのLTEサービスエリア拡大



アンリツのソリューション   **無線基地局建設・保守用テスタ 世界トップシェア***

*当社推定

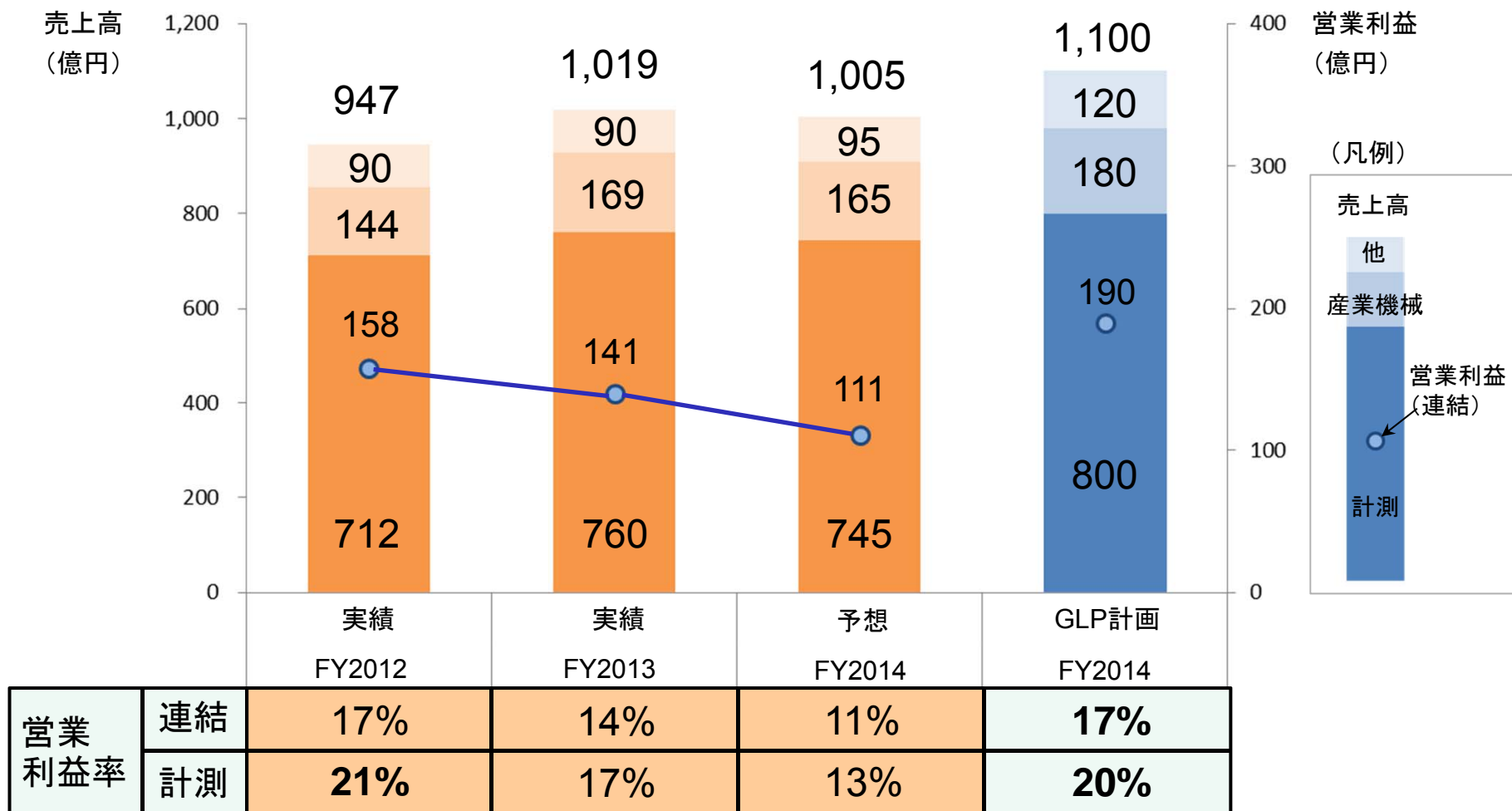
5. 中長期経営ビジョン 2020VISION

5-1. 2020VISION



5-2. 3力年経営計画 GLP2014

国際会計基準(IFRS)

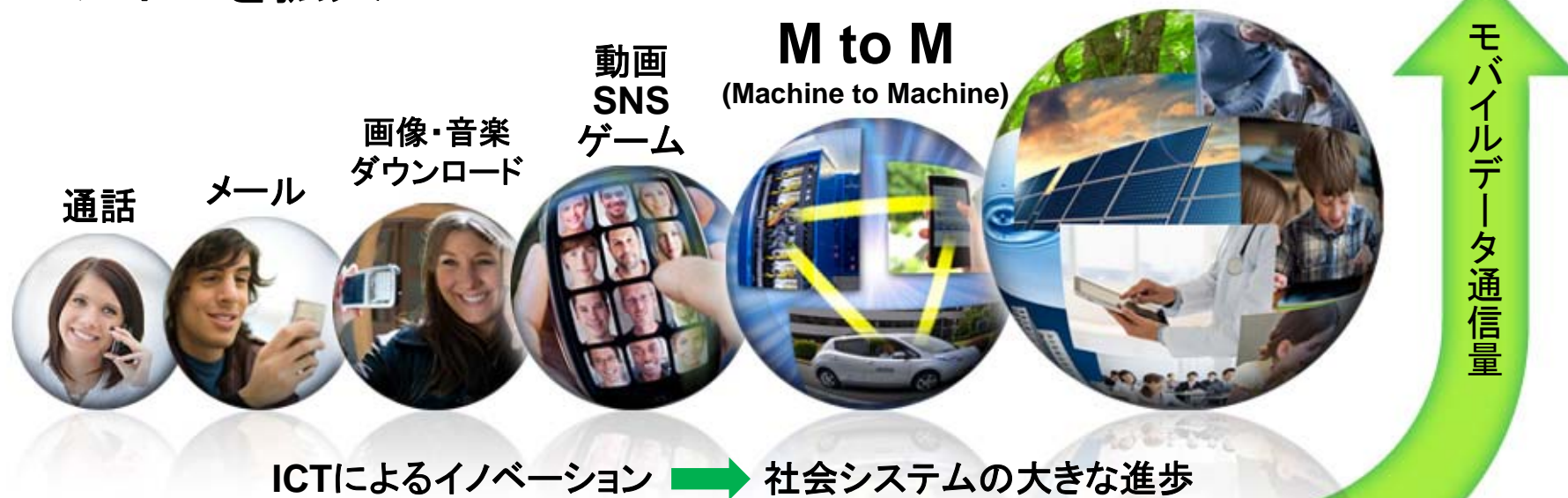


5-3. 計測事業の未来展望

社会インフラとして発展する
モバイル技術の進化を的確に捉え、
ビジネスを拡大

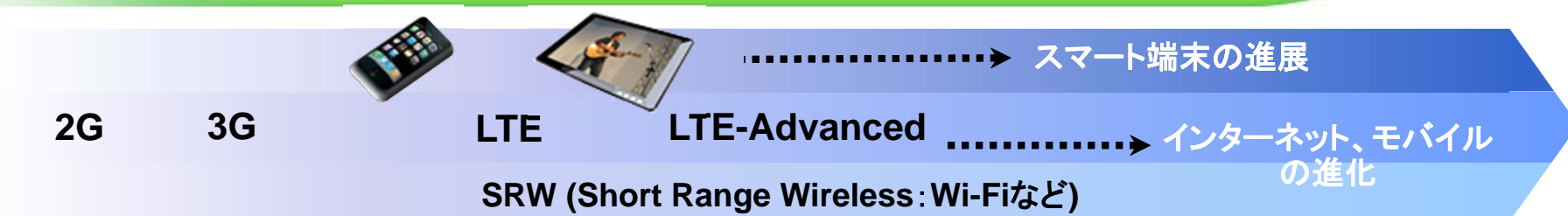
クラウド
サービス

(環境 / 健康・医療 / 教育 / 電子行政)



ICTによるイノベーション → 社会システムの大きな進歩

セキュリティとサービス品質の向上にむけた計測需要



5-4-1. 産業機械事業



食品・薬品などの生産ライン



計量機 定められた量に小分け	X線異物検出機 異物、形状検査など	金属検出機 金属異物を検出	重量選別機 質量や欠品のチェック
総合品質管理・制御システム 生産ライン全体の稼働状況を一元管理			

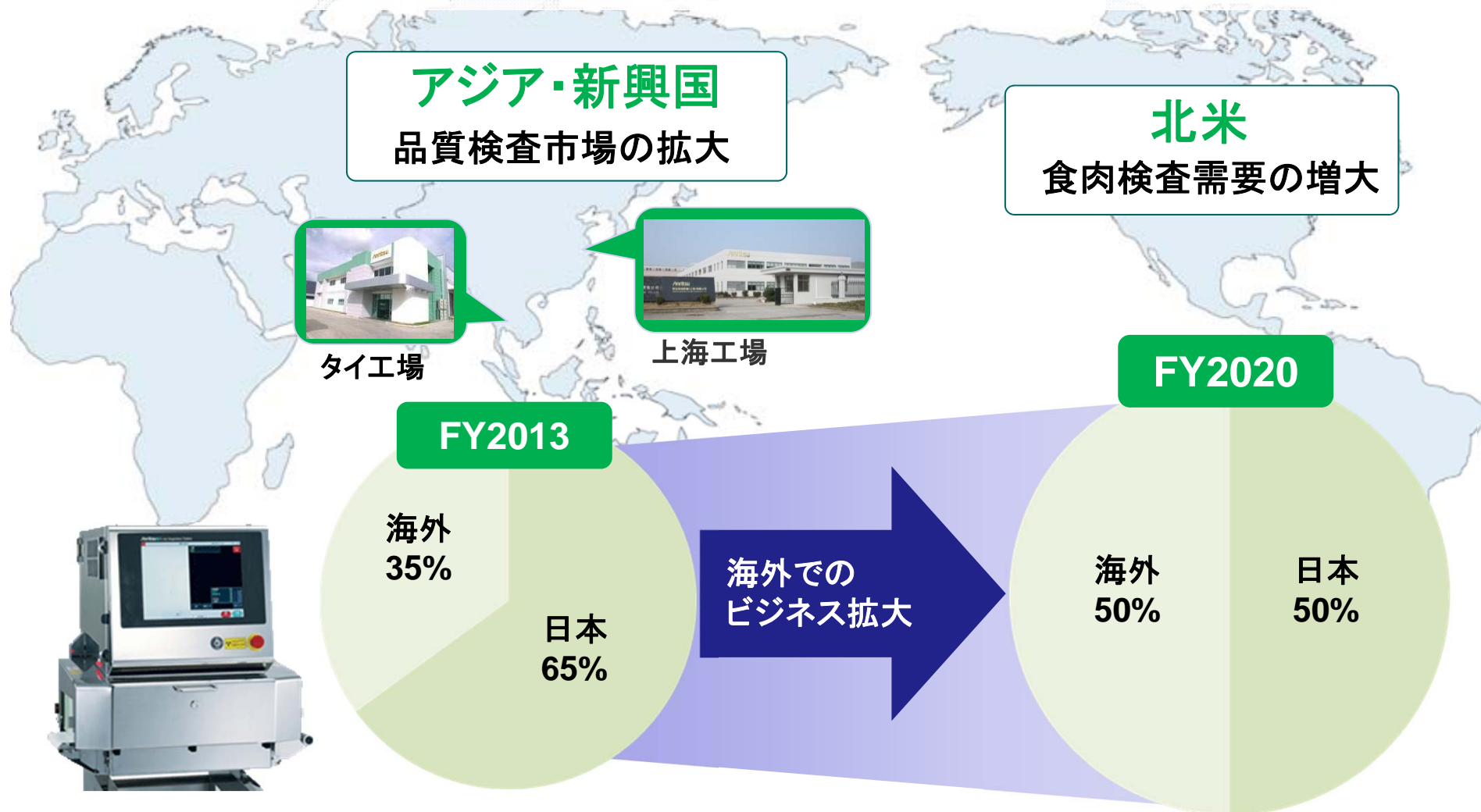


安心・安全を
ご家庭へ

主な顧客 日本ハムグループ、グリコグループ、ニッスイグループ
クラフトフーズ・グループ、ユニリーバ など

5-4-2. 産業機械事業の成長機会

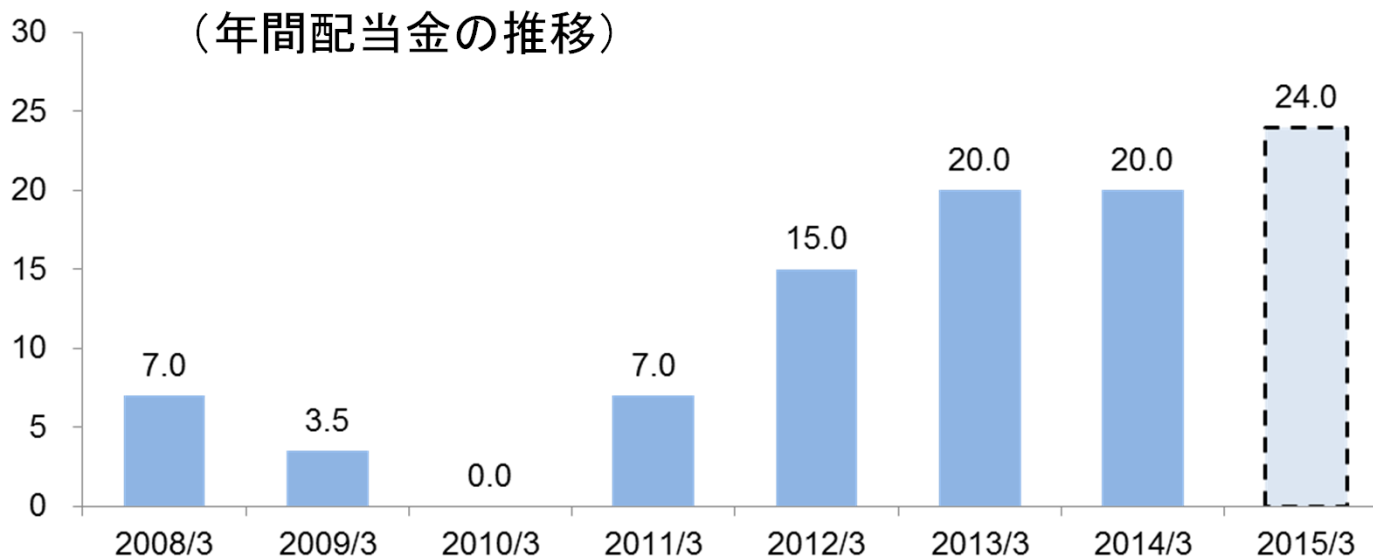
海外の成長市場で「地産地消」体制を推進



6. 株主・投資家の 皆さまへ

6-1. 株主還元の実 年間配当24円(中間配当12円)

■2014年3月期 DOE 4.1%
(参考)
東証一部単純平均:2.36%



利益配分に関する基本方針

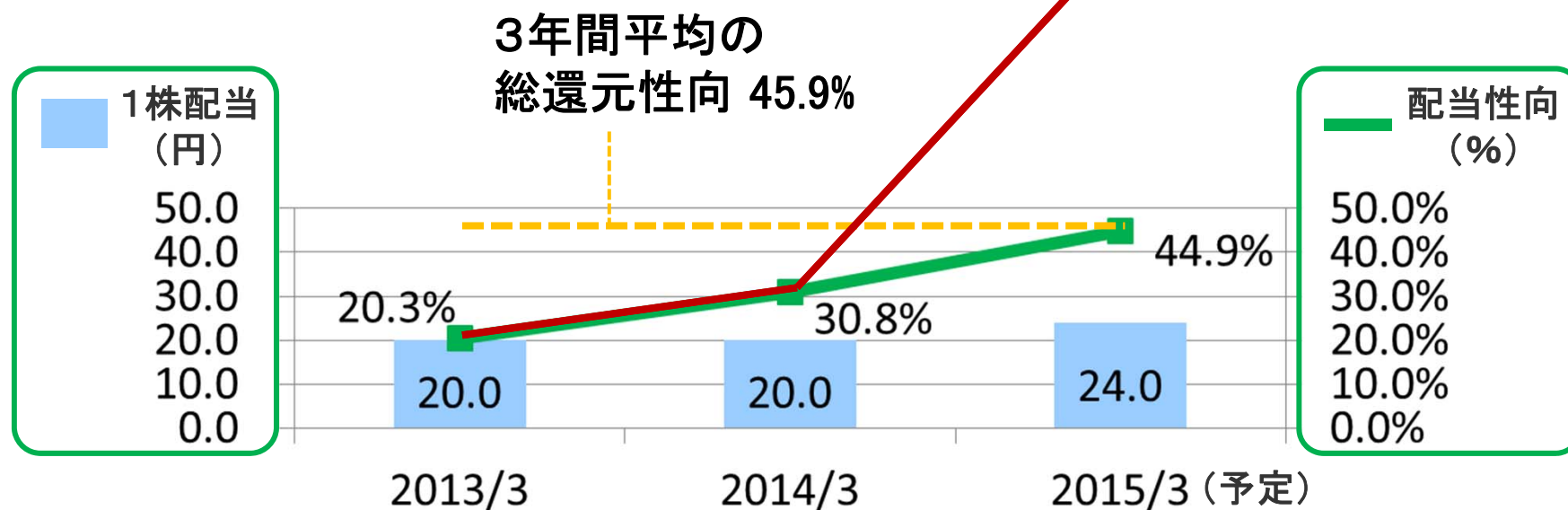
当社の株主の皆様に対する利益還元策は、連結業績に応じた利益処分を行うことを基本方針としております。剰余金の配当については、連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率(DOE: Dividend On Equity)を上げることを基本にしつつ、連結配当性向25%以上を目標とします。また、利益還元策として総還元性向を組み入れ自己株式の取得を検討してまいります。

6-2. 株主還元状況

自己株式の取得・消却： 約50億円(5,840,900株)

配当予定： 2014年度 年間24円

2014年度の総還元性向
112%(予定)



6-3.外部評価サマリー

* SRI(社会的責任投資)評価

- ① 2013 モーニングスター
社会的投資株価指数

* 2013年4月1日現在



- ② 2013 FTSE4Good Index

* 東証関連

- ・2013年度 企業価値向上表彰 優秀賞受賞
- ・JPX日経インデックス400構成銘柄

* CDP気候変動レポート評価

- ・ディスクロージャースコア 72 ⇒ 77
- ・パフォーマンスバンド C ⇒ B

* フロスト&サリバン

2013 Global Market Share
Leadership Award



* 「誠実な企業」賞

- ・「誠実な企業」賞
- 2014-Integrity Award-審議会
- 2014年
優秀賞



6-4. 新ブランドステートメント

envision : ensure

— アンリツの約束 —

2015年、創業120周年を迎えるアンリツ。
私たちはいま、よりよい社会づくりに向けて、
新たな約束を掲げました。

それが、envision : ensure です。

お客様と夢を共有しビジョンを創りあげるとともに、
それをイノベーションによりお客様の期待を
超える確かなかたちあるものへと創りあげる。

これが、envision : ensure に込めた
メッセージです。



6-5. アンリツ IRサイトのご紹介

会社情報、財務・業績データ、決算関連資料、事業紹介など、皆さまの情報収集に役立つ情報を掲載しています。

【アクセス方法】

アンリツホームページ(<http://www.anritsu.com>)→左メニュー「投資家のみなさまへ」をクリック

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。